

(金のエンジェル賞 幼児・小学生低学年の部)

## セミ太ろうの夏

小二・高橋 弘太郎

「ミンミンミン」

4年間土の中でねむっていたミンミンゼミのセミ太ろう。ようやく目をさまし、木にはりついて鳴いています。セミ太ろうのしごとは夏の間ミンミン鳴くこと。

「今日からしごとをがんばるぞ。」

ところが、はりきりすぎて、すぐに人間の男の子に見つかってしまいました。

「おねがいです。にがしてください。」

「だめだめ。せっかくぼくがつかまえたんだから。」

そう言って、セミ太ろうをかごの中に入れてしまいました。

さいしよはいやがっていたセミ太ろうですが、男の子の家はすずしくて気もちがいい。おまけにジュースやゼリー、すいかやアイスまでありました。

「かごの中のくらしもわるくないね。」

おなががいっぱいになったセミ太ろうはそのままねてしまい、おきたらま夜中になっていました。

「おっと！もうこんな時間。しごとをしなくちゃ。」

セミ太ろうは大きな声で鳴きました。すると、男の子のパパがやっつけてきて、

「うるさい。しずかにしてくれ。ねむれないじゃないか。」

---

次の日の朝、

「今なら鳴いてもだいじょうぶかな。」

セミ太ろうがミンミン鳴きはじめると、男の子がやってきて、

「セミ太ろう、まだ朝早いよ。しずかにして。」

昼になりました。パパは会社、男の子は学校へ行っています。

「今なら鳴いてもだいじょうぶだろう。」

セミ太ろうがミンミン鳴きはじめると、男の子のママがやってきて、

「赤ちゃんがねているの。しずかにして。」

セミ太ろうはかなしくなって、

「いったいぼくはいつ鳴けばいいんだ、ミンミン。おしごとしたいよう、ミンミン。」

男の子が帰ってきてても、パパが帰ってきてても、セミ太ろうはずっと鳴きつづけました。

「これじゃ、うるさくてねむれないよ。」

「ご近所にもめいわくだしね。」

とうとうセミ太ろうは、男の子の家を出て行くことになりました。

「セミ太ろう、元気でね。」

ベランダで男の子がセミ太ろうの入っているかごをあけました。

「ちゃんととべるかな。」

セミ太ろうはまだ一どもとんだことがありませんでした。男の子がベランダからセミ太ろうをなげました。

「ミンミンミン、セミパワー！」

元気な声で鳴くと羽がひらいて、空高くとぶことができました。

「やっぱりかごの中より外のほうがいいな。鳴きたいときに鳴けるし、おもいきりとべる。」

---



今日も元気にセミ太郎は鳴いています。

「ミンミンミン。」

セミ太郎の夏はまだはじまったばかりです。

画：橘 春香